

第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：財源・制度論	
日付：11 月 3 日（日）曜日、セッション時間： 9：00～10：30	
司会者名（所属）：松島格也(京都大学)	
討 議 内 容	セッション全体： 全体を通じた議論はなし
	（発表番号）発表者名（所属）：155 田中尚人（熊本大学） 建築物と土木構造物をわけの必要がないのではなかろうか？という質問があり、機能的な要因に応じて対処すべきとの回答があった。遺産として残すべき構造物の判断をどのようにするか？という質問に対して、学会による選定の基準などについて説明があった。 インフラのネットワーク性について保存方法についての分類があるといいのではないかと言うコメントがあった。
	（発表番号）発表者名（所属）：156 Imam Muthohar（九州大学） 鉄道運営の市場環境、英国でのオークションによる運営企業交代事例の参照可能性、運営効率性を図る指標について質問があり、新規企業の参入を政府が働きかけている、UK や日本の事例を参照にしている、経済効率性を含めた指標を検討中であるとの回答があった。 なぜ PSO が年にわたって減少しているのか、World Bank からの補助について質問があり、その理由について説明があった。会計情報や運営方法についての情報開示の状況について質問があり、その現状について説明があった。
	（発表番号）発表者名（所属）：157 加藤哲男（名古屋産業大学） 一般市民のアンケート結果について、平均をとることの意味はどうか、属性によって異なるのではないかという質問があり、一般市民の社会基盤整備に関わったかどうかの属性について情報はあるので、おって報告するとの回答があった。 市民と行政の比較することの意味は？むしろ異なる属性をもつ住民間の比較をする方がよいのではないかという質問があり、アンケート結果に対するバイアスのチェックを慎重にすべきではないかとの質問があり、今後属性毎の分析を行う予定である旨回答があった。 認識のちがいについて service gap 分析手法が参考になる旨コメントがあった。 整備の進め方に対する質問方法について質問があり、アンケート項目について単一回答と複数回答のものがあるとの回答があった。